

中文大家乐

みんなで楽しむ中国語

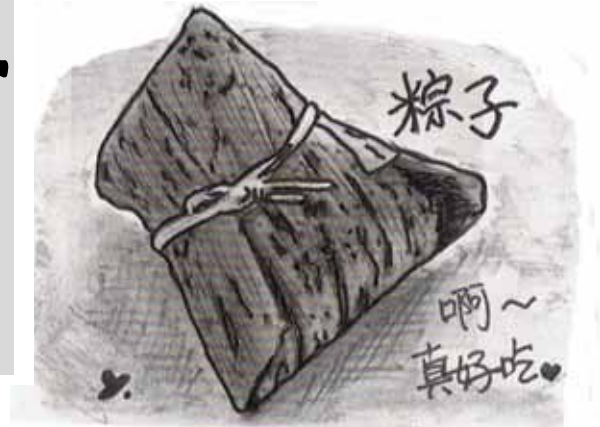
第11号 端午節号(2011・6・6)

<http://homepage3.nifty.com/chinese-wang>

2011・7・6 発行 年3回

松江中国語教室連盟

日本中国語検定協会松江会場



ゆきこ 絵

爱心传递

爱心是没有国界的、在我们遇到需要帮助的人的时候、应该不分国家、不分种族与肤色、伸出自己的爱心之手、援助之手、去无私的帮助他们。

3.11 日本东北部大地震引发的灾难让世界震惊。中国作为一衣带水的邻邦，除了在政府方面对日本表达了关切并提供援助以外，在中国民间也掀起了援助日本的浪潮：大批学者、普通民众以及民间机构等开始以捐款等方式表达对日本人民的慰问和鼓励。一位中国学者这样说到：「捐款是微不足道的，这是大家表示自己心情的一种方式。希望我们的声音能传到日本、让日本人民了解到、全世界都在声援、关注他们、分担他们的痛苦、希望日本人民能尽快战胜灾难。」

2008 年的四川汶川大地震期间、日本政府和民间社会给予中国慷慨的援助。在松江、我们先后举行过两次震灾义演、那时得到了众多市民的帮助和支援、让我们深受感动。这次日本遇到了困难、我们也应该为震区和受灾的人们做些什么。于是、决定以「松江中国語教室連盟」的名义为震区捐款。3月15日、由3位老师做为代表、来到岛根国际中心、把捐款交给了中心的负责人、并且转达了連盟所有成员对灾区人们的最真诚的慰问和祈福。

思いやりを届ける

思いやりに国境はありません。私たちに人を助ける必要が生じた時、国家の隔てなく、種族と肌色の隔てなく、自らの思いやりの手を、援助の手を差し伸べ、私心なく彼らを助けなければなりません。

3.11 東日本大震災は世界中を驚愕させる災禍を引き起こしました。中国は一衣帯水の隣国として、政府サイドによる日本への配慮と援助の提供を表わしたほか、中国の民間でも日本を援助するうねりが起こり、多くの学者、一般民衆および民間組織などで始めた義援金などの方法をもって日本国民への慰問と激励を表わしました。ある中国の学者はこう言いました「寄付は取るに足りない金額でも、みんなが自分の気持ちを示す一つのやり方です。我々の声が日本に届き、日本国民に理解されることを願い、全世界すべての声援が彼らを見まもり、彼らの苦痛を分かち合い、日本国民ができる限り早く災難に打ち勝つことを願っているのです。」

2008 年の四川汶川大地震の間、日本政府と民間の社会は中国に快く援助してくださいました。松江で、私たちが相次いで開いた二度の震災チャリティー公演では、多くの市民の助けと支援をいただき、私たちが深く感動させました。このたび日本が遭遇した困難には、私たちもまた被災地と被災した人々の為に少しでも何かをしなければなりません。そこで、「松江中国語教室連盟」として被災地義援金を決めました。3月15日、3名の先生が代表して島根国際センターに赴き、センターの責任者に義援金を手渡し、併せて連盟すべてのメンバーが被災地の人々に対して心からの慰問と幸福を祈っていることを伝えました。

「天灾无情、人有情」、在巨大自然灾害面前、不分民族相互救助、不分国籍彼此关爱、是人间之大爱。同时我们也相信、勤劳坚强的日本人民一定会战胜困难、重新建立自己美丽的家园的。

(山阴中央新报文化中心 中国语教室 胡斌)

「天災は無情、人は有情」、巨大な自然災害を前にして、民族の隔てなく互いに助け合い、国籍の隔てなく愛護する、これは人間の大きい愛です。同時に私たちはまた、勤勉で粘り強い日本国民はきっと困難に打ち勝って、再び自分たちの美しい郷里を築くことを信じています。

(建仁 訳)

台北游记

今年黄金周，我们在台北玩了六天，过得很轻松、舒畅、甜蜜。

我应汉语讲座联盟老师们的要求，写了这篇很简单的“游记”，但我们俩都不是“台湾通”，只不过是一般的游客，所以这文章里没什么新鲜事，请各位读者原谅。

淡水 五月四号天气还好，我们坐 MRT 去淡水。淡水位于台北市西北、面向台湾海峡，拥有名胜古迹、美丽山水。下车后先去红毛城参观了一下，然后在淡水河岸旁的一座咖啡厅休息。厅里设有露天咖啡座，可以享受南国海岸风情，在此我们边看淡水河的美景，边喝甜甜的热咖啡，实在很舒畅。

德也茶吃 这次蜜月旅行 我们一直住在喜来登台北，为何选择喜来登呢？一是这座饭店门前有 MRT 善导寺站，交通非常方便，二是饭店后面有一座茶艺馆名叫「德也茶吃」，我爱这茶艺馆的茶叶、茶点和宁静的环境。五月四号、六号我们在这里品尝的茶叶和茶点如下：金萱乌龙和艺豆卷、文山包种和山楂糕、炭焙包种和雪花糕、玫瑰乌龙和豌豆黄。我认为金萱乌龙的奶香和山楂糕的酸味，给我印象最深刻。

九份 五月五号我们先坐台铁「自强号」到瑞芳，在瑞芳站打出租车去九份。九份位于台湾东北部，背山面海、坡道纵横交错，是座富有古老气息的小镇。我们从基山街开始，闲逛半天，都走了豎崎路和轻便路，果然名不虚传，确有『千与千寻』里的气氛。这里还有很多观景茶馆，都可以观赏绝佳景色。爱人看上了「天空之城」的洋楼建筑，在此喝了一壶东方美人，我觉得十分甘甜香醇但苦涩味稍强。



四月份计划这次旅行的时候，我们俩这么预定：夫妻都有工作，出发之际可能累得透顶，新婚旅行的主要目的是休闲第一，参观第二吧。最后参观的地方不太多，但过得还不错。五月七号我们回日本，新的生活开始了！很多朋友问我新婚生活感觉如何？我总是这么回答：有时“乐”，也有时“辣”。 (狗)

东北賑災一日所感

東日本大地震发生后，两个月过去了，现在我们每天都看电视了解灾区的情况。我居住的岛根县离灾区很遥远，除了一些特殊职业的工作人员如医生，警察，一般人只能做点捐款活动。虽然这样的活动也很好，但我还想为东北地区的人多做一些事。正好这时，我认识的几个在东京的人告诉我，他们计划给受灾的人做一顿饭，需要人手，因此我就参加了他们的活动。

我们半夜坐大巴从东京出发，早上八点半到达宫城县石卷市。在车上我看到的景象，不知道怎么形容才好，用一句话来说就是非常怪异。道路的一边是普通的房子、树木和绿茸茸的平原，可另一边却是一片茶黑色的风景，我仔细看了看那茶黑色，有泥沙、坏了的车和埋在沙里的乱七八糟的家用电器。进入市街里，我们看到一家二层楼的商店，以为房子还剩下不少，没想到那商店一楼没有墙，只有柱子。还有的店，有墙，可是没有窗户，屋里堆满了瓦砾。

我们到了做饭地点，那个地方前面有一栋被海啸冲来的房子，后面也有很多这样的房子、船和车重叠在一起。左面有很多瓦砾，右面有压瘪的房子。空气中飘着渔港的味儿，还混着东西烧焦了的臭味儿及风卷过来的沙。虽然在电视上看见过灾区的样子，但当我们亲身站在那儿时，却震惊得说不出话来。

那天我们做了六百份套餐。有牛排、烤鱼、沙拉、米饭、还有杂煮和甜小豆汤。灾民们说，这样的美味是大地震以来第一次吃到，老人和孩子都很高兴，我们看见了他们的笑脸。

回到松江，我再一次感到灾区需要更大更长久的援助（他们说完全恢复要二十年）。他们最急需的是改善生活环境，因为虽然有几个商店卖生鲜食品，可是灾民没有做饭的条件。说实话，我自己也不知道怎么处理那些瓦砾和破损的房屋，我只知道比起钱，他们更需要有人帮助他们做一些清理、提供用餐等志愿者活动。（井上）

日本語訳

震災のための一日ボランティア

東日本大震災発生後 2ヶ月がたちました。今でも私達は毎日被災地の状況をテレビメディアを通して見えています。私の住んでいる島根県は、被災地から遠く離れているので、医者や警察官といった特殊な仕事の方を除いて被災地に行くのも難しく、募金活動をするしかないように思います。もちろん募金活動も大変素晴らしいことなのですが、何か他に東北地方の方々の為に出来ることはないだろうか？と日々思っていました。そんな時、私の東京の知り合いから被災地に炊き出しに行くので、人を集めていると連絡があり、すぐに参加を決めました。

私達は夜中にバスで東京を出発して、朝八時半に宮城県石巻市に着きました。車中で私がみた景色、それは何とも表現し難く、一言で言えば とても『奇妙』な光景でした。道路を挟んで片側は、普段通りの建物や樹木もあって青々とした草原が広がっていますが、反対側は 茶黒の色(それはもう、ただの茶黒い色の何もない風景なのです)が広がっています。よくよく、その茶黒色の風景を見ると、土砂と破壊された車、めちゃめちゃになった家電製品が 土に埋もれていました。さらに街に入ると、二階建ての商店が見えました。建物がかなり残っているなあと思いましたが、しかし、それも一階の壁がなくなって柱だけで建っていたのです。また別の店は、壁があるのですが、窓ガラスがなくなって室内が瓦礫(がれき)で一杯になって残されているのでした。

私達が炊き出しをする場所、そこは、前方に津波で流されてきた家があるままあり、後ろにも多くの家だったものに(原形はありません)、船と車が積み重なっていて、左側はたくさんの瓦礫、右側は潰された建物に囲まれていました。そして、漁港特有の空気に、何か物が焼き焦げた臭いが混ざり漂い、

風が塵埃(じんあい)を巻き上げていました。被災地の様子はテレビで見て理解しているつもりでしたが、実際にこの場所に立った時 あまりの衝撃に言葉を失いました。

その日、私達は600食をその場で作りました。ステーキ、焼魚、サラダ、ご飯、お雑煮、お汁粉(これ全部で一人前です) 被災地の方々は、こんなご馳走は地震以来初めてだよと、お年寄りも子供も喜んで 笑顔を見せてくれました。

松江に帰ってきて改めて思うのは、被災地は長い援助を必要としていること(被災地は完全復興に20年かかるらしいです)、そして被災者が今最も必要としているのは生活環境の改善なのです。既にスーパーで肉や魚などの生鮮食品は販売されていますが、彼らには調理できる環境がありません。正直なところ、被災地の様子を目の当たりにして、あのたくさんの積み重なった瓦礫や建築物の残骸をどうやって撤去できるのか考えられませんでした。

現段階では、被災地にとって金銭よりは、片付けや炊き出しといった現地でのボランティア活動ができる人が一番必要なのだと思います。(井上)

旅の思い出(1)

皆さんは週末いかがお過ごしでしょうか。私は朝からテルサ中国語教室で仲間とワイワイ楽しく勉強しています。今日は私が愛してやまない中国語を始めたきっかけとなったある旅について、お話しします。

2002年8月、上海空港に降り立った私は、1年ぶりに会う娘に心を躍らせていた。娘は、2001年夏から1年間、吉林省長春市にある吉林大学に留学していたのである。夏休みを利用して、1ヶ月にわたるシルクロードの旅を終えた娘は、ウルムチから一日かけて上海空港まで迎えに来てくれた。手を振って上海に招き入れてくれた娘は、長旅の疲れも見せず、すぐに「ピアス見て!このヘアスタイルどう?このスカートは90円だったのよ!・・・」と普段の他愛ないおしゃべりを始め、話が弾み、1年ぶりの感傷なんて吹っ飛んでしまった。

私達は、5日間を上海とその周辺の地方で過ごし、残りの4日間を吉林省長春市で過ごす予定だ。これより2人の旅が始まった。

まず、上海を象徴するバンドへ。19世紀後半から1940年代まで100年近く外国人が実権を握っていたその地では、南北1.5キロにわたり、その時代に立てられた欧米様式の荘厳な建築物がずらりと並んでいる。黄浦公園から見た、美しいアールデコ調の建物は壮観。また、黄浦江対岸の近未来的高層建築群との対照も素晴らしい。バンドは夜19時を過ぎるときれいにライトアップされ、幻想的な雰囲気となり、観光客、夕涼みの家族連れ、カップルなど大勢の人出となる。憧れのバンドに感嘆とため息!ここが中国?と中国にいるのを忘れてしまいそう・・・。

南京路は、バンドから東西に伸びる、100年以上前から栄える繁華街。1033mの区間が歩行者天国として開放され、ショッピング、レストラン、ホテル、映画館などがびっしり並んでいる。とくに夕方からの人出はものすごく、道路いっぱい人が溢れて大賑わい。街のネオンもまぶしいばかりに光っていて、中国独自の色合いを感じさせていたが、本当に明るくて美しかった。初日の夜、私達はこの通りにある揚州料理の専門店へ行き、おいしい料理に舌鼓を打った。また、ショッピングも大変楽しかった。景德鎮の陶器、衣類など素敵なものが、安くて豊富。値

切ればさらに安く買うことが出来る。娘は慣れた中国語で値切っている。慣れない私は、ほどほどの値段を言われると、このくらいで・・・と財布を出すのだが、財布を出したら最後！まだいけるわよ！と、娘に注意された。だんだんコツが分ってきた私は、ショッピングの楽しみは、値切りの楽しみともなっていた。

上海の歴史あるホテルに泊まってみたい！という娘が予約したホテルは、バンドでもっとも有名な和平飯店と、70年代まで上海で一番高級だったアールデコ調様式のホテル、錦江飯店だった。和平飯店は、外観は勿論室内や廊下も租界時代の面影を残したまま。大理石とステンドグラスの調和、それに豪華なシャンデリアと、とても趣があった。夜になると、1階のバーでは、ろうそくランプをモチーフにしたシャンデリアの光のもと、「老年ジャズバンド」（平均年齢70歳という熟年の紳士たちで構成）の演奏があり、モダンな雰囲気の中で各国の人たちとテーブルを囲み、哀愁漂うジャズの調べに耳を傾けた。時間が経つにつれて、ここでも、中国にいたことを忘れて、歴史ある空間を感じて酔いしれている自分がいた。錦江飯店は、広大な敷地の中に各国のレストランが並んでいる。インド料理を選んだ私達は、門に1歩入っただけで、さながらインドの国にいるような錯覚に陥った。カレーのおいしさは勿論、大きな釜の中で、1メートル以上もあるような鉄串で焼く豪快なタンドリーチキンのおいしさは格別！陽気で親切なインド人に囲まれてリッチ！な気分。

昼間は、ガイドマップを片手にあちこちのエリアを歩いてみた。淮海路は、旧フランス租界地で、またまた「ここは中国？」と疑ってしまうほど。ブランドショップ、上海伊勢丹をはじめとした外資系ファッションなどのお店が並んでいるが、街並みは静かで、フランスを思わせる樹木が林立し、「一昨年に訪れたフランスにまた来たいね。」と2人で懐かしがった。また、伝統的な上海を感じる事が出来る豫園という庭園に行った。ここでは伝統的な建物と景色を堪能した。その後は、豫園の西側にある豫園商場で買い物と昼ごはんを食べた。昼ごはんは、行列の出来るおいしい店との評判の小籠包（ショウロンポー）。私達も並んで待った。蒸籠の中には出来立ての小籠包がぎっしり。それをテイクアウトしていただく。肉汁が口の中に溢れてとてもおいしかった。この日の夜は、点心がおいしく地元の上海人にも人気があるレストランに行った。値段も手ごろでおいしい点心をいろいろ注文した。特にマンゴープリンはマンゴの実がそのまま使われていて、今までに食べたことのないおいしさだった。この日以来、私はマンゴー大好き人間になった。

上海周辺では、900年の歴史を誇る水郷村、周荘に訪れた。バスで付近まで行き、そこから人力車に乗った。やせ気味で真っ黒に日焼けした中年の男性が引いてくれたのだが、二人乗せて運ぶのは大変らしく、ひよろひよろしながら運転していた。大丈夫かな、と心配していたが案の定、アーチの架かった橋の上りのところで、その足が止まった。しょうがないなあ、と思いつつも、そのおじさんのニコニコした笑顔に、私達もなんだかおかしさが込み上げてしまって、大笑いになった。車を降りて、3人でえっちらおっちら車を押し橋の上まで行き、下りになってからまた車に乗った。旅を振り返ってみると、何気ないおじさんの笑顔が、忘れられない旅の思い出となった。他にも、無錫、蘇州と水の都を堪能した。無錫では太湖の広々とした水の自然美に感動し、また蘇州では、どこまでも続くような運河、そして、蓮の花の広がる広大な庭園に圧倒された。

このように、上海という過去の歴史を肌で感じられるモダンな都市、そして、周辺に広がる穏やかな水の都を堪能することが出来た。（次号につづく）（福）

娘の婚礼

私たち夫婦は今年のゴールデンウィークの約5日間、中国寧夏回族自治区銀川市を訪れました。銀川市にある島根大学の研究室に勤務して2年余りになる娘のもとを訪問するためです。娘は以前、湖南省長沙市で2年間日本語教師として勤務したことがあり、私たちも4年前その地を訪れたことがあります。なので中国への旅行は今回が2回目ですが、今回は前回とはかなり趣きが違っていました。なぜなら今回の一番の目的は5月2日に執り行われる娘の婚礼への出席だったからです。もちろんお相手の彼は中国人回族の青年です。

ここに致るまでの経緯は色々ありましたが、最後には2人の強い意志を認め尊重することでこの日を迎えたのです。娘の国際結婚など予想していなかった私ですが、今回の中国での婚礼への出席は想像を超えたとても貴重な経験の連続でした。

日本の婚礼は披露宴は賑やかですが、式そのものは神前（日本式）にしても教会（西洋式）にしてもとても厳かに静かに執り行われることが多いと思います。しかし中国の婚礼はかなり違っていました。その一番の印象は「賑やか！」という一言です。

その様子とは言いますと・・・まず婚礼当日、赤色や金色等の花や飾りでボンネットいっばいに飾りつけられた黒塗りの乗用車が私たちの滞在しているホテルまで迎えに来てくれました。そんな派手な車約10台にウエディングドレスのベールの上から赤いレースの布をすっぽり被った娘、介添人、私たち夫婦そして娘の友人や職場関係者の方々等が乗り込んで高速道路を連なって式場まで走ります。まず日本では考えられない光景です。そして、到着した式場には新郎側の親戚縁者、職場関係者、友人等々総勢約400人が集まってくれていました。日本ならさしずめ芸能人の婚礼のスケールでしょうか。

その後スタートした式はいきなり花火の演出から始まり花吹雪、紙吹雪、シャボン玉、クラッカー、タバコの煙等の中、新郎新婦入場、来賓挨拶、指輪の交換、誓いの言葉等着々と進みました。その間、通訳の方の中国語と日本語が飛び交い、熱気に包まれた式場の中で私の頭の中もお祭り状態でした。そしていよいよ式の最後に新郎の両親と私たち夫婦が壇上に呼ばれたのです。そこで私たちは新郎からお茶をふるまわれ「お父さん」「お母さん」と呼んでもらいました。この瞬間親子になるという儀式なのだそうです。私は「日本の婚礼のお互いの両親への花束贈呈に少し似ているかなあ」なんてボーッとしている頭で考えていました。その後宴会に移りましたがこれも最後まで賑やかに進み、両頬と額に赤い紅をつけられた夫は終始楽しそうに娘を嫁がせる感慨に浸る間もなく、また涙する暇もなかったようです。後で聞きましたが、中国では嬉しいおめでたい婚礼に涙は禁物なのだそうです。泣く暇がなかった夫はかえって良かったのですね。

中国の法律は日本と異なり結婚後も新婦の姓は変わりません。娘も姓や国籍が変わらないせいでしょうか、そしてあまりにも賑やかで楽しい婚礼だったからでしょうか、帰国した今も私たちは不思議と寂しさを感じないのです。

とはいえ、文化、宗教、言葉、環境等々異なる地で一生を暮らす道を選んだ娘です。親として心配は尽きませんが、周りの方々に支えられながら仲良く逞しく幸福に暮らしてくれることをただただ祈るばかりです。親の気持ちは中国も日本も変わりませんよね。

そして私に中国語の学習のきっかけを作ってくれたこの婚礼に感謝しつつ、これからも度々中国を訪れる機会があることを期待し楽しみにしている私です。 （田中恵子）

上海リポート

明本さんは上海の大学で日本語教師をしています。日本語を教えることが好きな彼女は忙しい毎日を送りながらも上海の今を取り上げてリポートしています。大きく変わっていく中国を垣間見ていただけたら幸いです。

上海の女の子

「上海の女の子」というと、皆さん、どのようなイメージが浮かびますか？

私は中国語の雑誌や本などから、おしゃれ、派手好き、気が強い、大雑把に言えばそんなイメージを抱いて上海に来ました。日本語科は女子学生が約4分の3を占め、また先生たちも20代の、私から見ると十分「女の子」といえる若い先生たちもいて、「上海の女の子」ウオッチングにはこと欠かない環境です。

ちょっと困ったタイプとしては、バスの窓から昼食に食べた餃子の空パックを、箸と一緒に放り投げた子（怪不得、到处都是垃圾……）や、超満員のバスに乗車拒否に遭い、そのバスの運転席前に背中でもたれて発車妨害30分の二人組などがいますが、そんなのは一部の例外だと思いたいところです。

ある日の夕方は、「そんなの」とは大違いの心優しい素敵な学生と出会いました。構内を歩いているとき足がつってしまったので、木の下に座って休んでいると一人の女子学生が、通り過ぎて行ったのにも関わらず引き返し、「怎么了？」と……。「我脚疼了，没大事，一会儿就好了。」と言ったのですが、「您是日本老师，是吧？我陪您去外教楼。」と言って、肩を貸してくれました。道々、「不要紧，慢慢走。」と何度も声をかけてくれ、話を聞くとお父さんは他の大学の日本語の先生だとのこと。彼女自身は日本語科の学生ではなかったもので、その後会うこともないのが残念ですが、こういうことを「没事！应该的。」と自然にできるのはすごいことだと思いました。

対照的とも言える「上海の女の子」ですが、共通していることは、みんなおしゃれに頑張っているところです。私自身は（客観的に見ても）日本の女性のほうがセンスはいいと思うのですが、上海の（中国の？）女の子たちは、人の目や流行に左右されることなく自由です。スタイルはスラッとしているし、いつでも悠々と歩いているところが私はとても好きです。ただ、色や上下の組み合わせなど「え？どうしたの？」と思うときも多々ありますね。

TPOというものは、ほとんど関係なさそうです。先生でさえジーンズからミニスカートまで「何でもあり」です。20代の先生は夏の今ですと、超ミニワンピースだったりするのでデートなのか授業しに来ているのか、日本人の私から見ると「区別したら？」と言いたくなりますが……。携帯電話も彼氏との会話であろうと、宅配便の受け取りの確認であろうと、何でもオフィスでやっています。（私はこれでかなり“听力”を鍛えられています。大分分かるようになりました。）

同じ行動をしたいとは思いませんが、中国のこういう気楽さが実は好きでもあり、日本人はとてもマナーがいいとは思いますが、常に人のことを気にしながら行動する日本人、誰のためのマナーかな？と思うときもあります。

多くの学生たちが、性格はあっけらかんとしていて、表裏がありません。作文の中に「彼氏と買い物するときにとても楽しい。欲しい物を見つけるとカードで買ってもらうからだ。」「遊園地に彼氏と行った。友達と行ったときより一番楽しかった」などと、何も気にせずよく書いています。最初は「はあ？」と思っていましたが、今はすっかり慣れて「日本語として正しいか」という観点でのみ、見られるようになりました。

気さくな彼女たちは、下級生のうちは授業が終わると「先生、じゃあね」とか「バイバイ」とか言ったりしながら教室を出ていきます。そういう「親しみ」が「礼儀正しさ」より彼女たちとしては最優先のようです。日本語としては、話にならない非常識さですが、4年生になると「失礼します」と言えるようになるようなので、下級生にはうるさく言っていない。（日本語教師としてこれでいいのかは、疑問ですが）**そんな楽しい彼女たちとの今年度もまもなく終了。新学期の新しい学生たちとの出会いが早くも楽しみです。**

作文园地

内田同学很喜欢小动物，每当谈起她的那些宠物，她的眼睛里总是放着光亮。那你用中文把它写下来吧，老师一句不经意的建议，使我们大家有幸能一起分享一点儿她的快乐。

我喜欢的宠物

私のお気に入りのペット

从前我养过各种各样的宠物。孩子们上小学时，家里有两只松鼠、两只乌龟、一只草原犬鼠，还有学校放暑假时(平时在教室学生们养的)十只金琵琶在暑假中轮班饲养，叫的声音很好听。每天我忙于照顾它们，家里好像一家小宠物店。

为什么我会喜欢松鼠呢？一年冬天我去和歌山的城，听到动物的叫声，是台湾松鼠发出的，它在城楼的院子里放养着。几天以后我去百货店里的宠物店买了一只花鼠。从那天起它成了我家的一员。

春天来时，一年中的这个时候有一天，松鼠会整天叫个不停。这是繁殖期的雌雄松鼠，互相发出呼唤。松鼠还有一个特别的习惯，冬天之前，它们开始搬运吃的东西到自己的巢，它鼓起脸颊把饵料放进去，运送的样子很可爱。它让我们大家感到快活。

家里也养过数年一只比较罕见的动物—草原犬鼠。它被丢在公园里，我捡了回来。它是一种松鼠，原来住在平原，吃草。偶尔遇见外敌(比如说鹭等等)，马上就钻进窝子。可惜它后来得病死了。

现在家里没有什么动物，有时野鸟从后山飞过来，我们会看见他们那可爱的样子。(内田)

旅游天地

千年古镇----西塘

西塘---位于中国浙江省的北端、距离上海 90 公里、是中国江南六大古镇之一。西塘古镇的历史最为悠久、早在春秋战国年代、这里就是吴越相争的交界地、到了唐代就有了村落、明代的时候建立了镇。

西塘的「桥多、弄多、廊棚多」，因此而出名。这里大大小小的桥有 108 座、有 122 条弄堂、而临河修建的廊棚最为吸引人、一条 1300 多米长的廊棚至今仍然担当着其重要的角色。

西塘的魅力除了石桥、流水、青瓦灰墙的民居以外、更重要的是这里深厚的文化底蕴才是江南古镇的灵魂所在。特别是在下雨天或者夜幕初降的时候、与当地人一起上船捕鱼、或泛舟河上、斟一杯黄酒、吃一颗青豆与好友畅谈、船舱之外、摇橹的渔家、唱起一支小曲、宛如回到从前的时代... ..让你感到现代与古代绝妙的融合。

注释：

- 1)江南六大古镇:周庄、同里、甪直、西塘、乌镇、南浔。
- 2)弄:指小巷。
- 3)廊棚:带有屋顶的街。

影视窗

奈良同学的中文学习是从她喜欢看中国电影开始的。几年下来，进步不小。她珍惜每个能提高中文水平的机会，坚持用中文写专栏介绍中国大陆及港台影视。希望您能从中发现您喜欢的一部。

地上数码放送快开始了。大家准备好了吗？我二月底终于买了数码电视机。现在我能看到很多关于港台的电视节目了。很好！很开心！

最近我特别喜欢的是台湾的电视剧。我一周录下三场电视剧，有时间时慢慢看。目前在日本，韩国的电视剧比台湾的电视剧多得多，但是台湾电视剧的人气最近也在渐渐上升。今天我给大家介绍几部台湾的电视剧，出租的DVD也比较容易找到。让我们一起走在时代的前沿，来看看台湾的电视剧吧！

『偷心大聖 P.S. 男』 日語片名『P.S. 男』



主人公和杰是个有名的作家，也是多面艺人。他常常觉得世界上没有他攻不下来的女人。他是个非常自高自大的人。

有天他引发了一个事件，于是他受到强迫他参加 158 个小时社会义务劳动的惩罚。义务劳动地是一个幼儿园。小时候经常被他欺负的女孩子“鋼牙妹”马小茜在那儿当老师。自高自大的和杰究竟会变成什么样子呢？

【一句评论】扮演和杰的蓝正龙与扮演他情敌的温升豪，两个男演员长得太酷了！我很羡慕小茜同时被这样的两个男人喜欢。可是，小茜妹，你的裙子是不是太短了？我知道你的工作对象是孩子们，但是…。

『就想赖着你』 日語片名『君には絶対恋してない！』

杨果在富裕家庭长大，但是母亲死了以后，父亲破产了，欠下一大笔债，她只有每天埋头打工。她姐姐楊朵在律师办公室工作，那里的老板項羽平收养了死于交通事故哥哥的两个孩子。項羽平拜托楊朵找个保姆。杨朵觉得这个工作的报酬很高，她推荐杨果，于是杨果在項羽平家开始工作。項羽平对杨果提出的条件是绝对别看上他。

【一句评论】”两个又帅又有才能的男人喜欢一个普通的女孩子”这类故事在台湾受欢迎吗？「P.S. 男」和「就想赖着你」都是这样的故事。扮演項羽平的言承旭在日本也很受欢迎。



『犀利人妻』 日語片名『結婚って、幸せですか』



瑞凡是下次副总候补，受到部下信赖，人也很诚实。安真是贤妻良母。瑞凡和安真是一对美满理想的夫妇。

有天安真妈妈拜托他们照顾从美国回来的安真表妹薇恩。他们跟薇恩开始一起生活，而他们俩的婚姻却逐渐开始出现危机。

【一句评论】在日本刚刚开始播放。在台湾播放的时候获得了很高的收视率，而且产生了流行词“小三”。在台湾把情人叫做“第三者”。“小三”是年轻的“第三者”的意思。

『我在墾丁*天气晴』 日語片名『墾丁は今日も晴れ！』

汉文，阿佐和亮亮是在墾丁一起长大的朋友。

汉文和亮亮很喜欢雨不停写的网上小说。他们还没见到雨不停，但是汉文热恋着雨不停，常常看她的博客，写留言。雨不停回信的时候，他们非常高兴。

雨不停是晓纬的笔名，她住在台北，与小说的内容相反，恋爱很不顺心，过着昏天黑地的生活。她觉得很累，看了汉文的网上留言后，来到墾丁。还有一个男人阿南也来到墾丁找人。在墾丁展开了他们五个人的故事。

【一句评论】这部电视剧不但讲述恋爱故事，也描写乡下才有的人与人之间的温暖，甚至还引人思考旅游开发和环境保护的关系，尤其是外地来的年轻人在当地起带头作用，我觉得太好了。我很喜欢里面的片头曲“有你的快樂”、片尾曲“因為我愛你”，买了那个歌手王若琳的 CD。（奈良）



中国語と日本語

6月6日は旧暦の5月5日、中国の端午節である。うれしいことに山陰の端午の節句も旧暦に近く、日本のほかの地域より1ヶ月遅れて、笹まきを食べる習慣がある。ちょうどその日の夜は教室があつて、中華ちまきを持って行った。(ちまきは特別なものではなく、スーパードでいつも売っている冷凍もの。)

その日の授業でちまきの由来を説明した。戦国時代・楚の国の詩人であり政治家でもある屈原(qu yuan)が、国を救うことが出来ず、亡国を見るにも忍ばず、絶望して入水自殺した。彼を尊敬している人々が亡骸を魚に食われないようちまきを河に投げたという。

私の話を聞いてある生徒さんがすぐ「端午の節句は中国からきたのですか」と質問した。(あれ? 「中文大家楽」の端午節号は今年3回目、毎回ちまきの話に触れていたはず。というのを読んでもらえていない。確かに本紙は白黒コピーで文字ばかりだし、読みづらいただろうけど・・・)

私は端午節は中国が起源だと思っているが、すでに韓国の端午節は世界無形文化遺産に登録されたことを最近知り驚いた。いずれにしろ、アジアの文化がつながり影響しあうことはいいことである。

本紙の第1面に胡先生の「愛心伝達」という文章がのっている。最初このタイトルを見て日本語にどう訳すかなと考えた。そのあと「思いやりを届ける」と訳した建仁さんの日本語訳を読みいい訳だなあと感心した。「愛」の響きより、なんとなく「思いやり」のほうが心地よい。

ある年齢を超えてから始めた外国語にネイティブと同じ語感を持つ事の難しさをいつも思い知らされている。でもそこ諦めず、生涯をかけてその限界に挑戦してみる価値があると思う。外国語を学ぶ面白さは、きつと第2面「台北游记」の作者——狗さんが語った新婚生活のように「時には楽しい、時には辛い」であろう。中国語を勉強している皆さんもぜひ一緒にがんばりましょう。



内田さんのお気に入りのペット—シマリス

中国の漢字が日本に取り入れられて千年以上も立っている。同じ漢字で同じ意味を表す語(「学生」と「学生」「科学」と「科学」)もあれば、同じ文字で書かれても意味や語調がずれているものも数多くある。(本紙の名前「中文大家楽」の「大家」は中国語で皆という意味)。「台北游记」に「我应汉语讲座联盟老师们的要求」(中国語教室連盟の先生方のご要望に応じて)というくだりがある。その中国語の「要求」は日本語ほど意味が強くなり、語調は「希望」に近い。その一語を取り違っても内容的には変わらないが、中国語教室連盟の先生たちの穏やかなイメージが崩れる恐れがある。中日の同形異義語にはくれぐれも注意していただきたい。

我が家では、朝ラジオのニュースや音楽の放送を聴きながらごはんを食べることがよくある。ある日番組で視聴者からの手紙が読まれていた。「・・・はっきり言って、この番組が好きです」。私はこの日本語を聞いて変だなと思っただ。日本で教育を受け、日本語感覚がネイティブに近い高校生の長男も違和感を覚えたと言う。「はっきり言って」の後にほめ言葉が来ないよと彼は言った。一瞬私は自分も日本語の語感を少し持つようになったとうれしかったが、よく考えてみると、中国語でも「明确地说」(はっきり言って)のあとに大体否定的なものが続く。やはりしつくりこなかったその感覚は中国語による語感なのか。「白高兴一场」(喜びはむなく終わった)。